

平成 20 年度決算特別委員会（平成 21 年 9 月 11 日）

企画調整局

質疑者 北山順一

質疑要旨	答弁者	答弁要旨
<p>1. 新たな国際交流の展開について</p> <p>社会経済のグローバル化が進んで、自由に海外を行き来できる時代であるため、これからは都市と都市の交流にとどまらず、都市と国というもっと大きな視点に立って国際交流を行っていくべきであると考えている。</p> <p>まず、経済交流・技術交流について、例えば、「資源活用」や「エネルギー技術」をはじめとする貴重な技術やノウハウを持つ団塊の世代の方々が地域にはたくさんおられる。その貴重な人材を積極的に活用して、開発途上国等で国際貢献を図ることや、また外務省で設けている地方連携推進室を活用することなど、積極的な取り組みにより神戸市のステータスの向上にもつながっていくことと思う。ひいては神戸の中小企業が進出して、現地の方を雇用することにもつながると思うが、この点についてまずお伺いしたいと思う。</p> <p>次に、人材交流について、相手国からの留学生を積極的に受け入れていくべきであると考えている。その子どもたちは卒業後、国に帰れば間違いなく、その国のリーダーとなる人たちであるし、留学先の斡旋や奨学金制度の充実などで積極的に支援</p>	<p>局長</p>	<p>ご指摘の国際交流は、国際都市神戸にとって非常に大事な役目である。局で言うと国際文化観光局が専門性やノウハウを発揮しながら取り組んでいる。企画調整局としても、ご承知のとおり医療産業都市構想やあるいは「デザイン都市」のユネスコ・創造都市ネットワークなどといった関係から取り組みを行っている。</p> <p>次世代スーパーコンピュータが本格稼動すれば、外国の研究者の増加が予定されている。そういった環境整備についても、大事であると思っている。</p> <p>ご指摘の経済交流・技術交流については、神戸市で言うと大津市と「環境保護協力に関する覚書」を締結して、9月には「神戸市・大津市環境ビジネスセミナー」を大津市で開催し、あわせてビジネスマッチングを行っている。</p> <p>団塊の世代の活用については、一つには J I C A が技術支援的なことを実施しているので、J I C A にもこういったことを話していきたいと思うが、私の思いとしては団塊の世代の技術の継承についても、日本において大事ではないかと思っているので、その点バランスよくやっていく必要があると思う。</p> <p>また、J I C A を通じて、市職員も技術交流といった形で各国へ行っているので、開発途上国に対する国際貢献につながっているのではないかと考えている。また、神戸市の施策の向上にもつながっているのではないかと考えている。</p> <p>外務省の「在外公館施設利用制度」という制度があり、複数の自治体が利用していることは承知しているが神戸市はまだ利用していない。貴重なセール</p>

していくべきであると考えている。また卒業後に、神戸で就職したいという人も多数おられると思うので、こういった優秀な人材を確保するためにも就職の支援が必要であると思う。

これらの交流に加えて、年1回は外交団や領事団との懇談会を開催し、国際級のイベントやコンベンションを誘致する努力も必要であると思う。

企画調整局がリーダーシップをとって、積極的に局と局との調整を行い、新たな国際交流を推進していくべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望)

都市と都市との交流だけではなく、国際交流が大事であるということについて、よく承知しているという答弁であった。その点は精一杯本気で取り組んでもらいたい。答弁のときだけ本気ということのないよう、取り組んでいただきたい。

今後は企画調整局がさらに前に出て、他部局と本格的に調整して、国

スの場合とも考えられるので、関係局とも相談しながら、活用を検討してみたいと考えている。

留学生への支援については、本市では「留学生支援等基金」を設置して、基金の運用益を原資として、奨学金を支給しているほか、学園都市の神戸留学生会館、ポートアイランドの公団住宅、六甲アイランドの市営住宅の借上げによる住宅の斡旋といった支援を行っている。

また、就職支援についても、経済産業省の事業としてビジネス日本語講座、あるいはインターンシップ等の支援事業を実施しているほか、神戸市内での起業にあたっての支援も実施しているところである。

領事団と年一回懇談会をやってはどうかということだが、領事団との交流は具体的には毎年「新春国際親善パーティー」や、県と共催で「ひょうご・神戸国際サミット」を開催して、在関西の総領事館と意見交換を行っており、今後ともこのような機会を通じて交流を深めていきたい。

委員のご指摘は、神戸市の都市戦略として、国際都市との国際交流を進めていくべきではないかということであるが、私としては、今後、国際交流の重要性が増してくると考えているので、関係各局とも連携しながら、ご指摘の点も踏まえて積極的に取り組んでまいりたい。

際交流を進めてもらいたい。

また国際交流だけでなく、国内の地方都市との連携、地方都市といっても、先進都市といわれる都市ではなく、鹿児島や青森、北海道などの都市との連携について、職員の交流も含めてやっていただきたい。

もう1点ファストフードという言葉から、スローフードの時代になってきているので、都市もファスト、スピードオンリーの時代から、スローの時代にならないといけない。健康を楽しむまちづくりを推進している神戸市であるので、今後は自転車道を整備して、風を感じるまち神戸を推進していただきたい。